

2011年7月26日

## 車載用リチウムイオン電池カーボン負極材の生産能力倍増を決定

日立化成工業株式会社(本社:東京、執行役社長:田中 一行、資本金:155億円)は、山崎事業所(勝田:茨城県ひたちなか市)において、環境対応自動車であるハイブリッド自動車(HEV)、電気自動車(EV)やプラグインハイブリッド自動車(PHEV)の市場拡大に伴うリチウムイオン電池用カーボン負極材(以下、車載用負極材)の需要増に対応するため、約35億円の投資を行い、第三、第四ラインを増設することを決定しました。2012年9月の稼働開始を目指します。

当社では、携帯電話、スマートフォン、ノートPC、タブレットPCなどに用いられる民生向けリチウムイオン電池用カーボン負極材の研究開発で培った粒子形状や表面構造の制御技術などをもとに、EV、およびPHEV向けに、航続距離を重視し、高容量密度、かつ充放電効率に優れる黒鉛系負極材、HEV向けに入力特性に優れる非晶質炭素負極材を開発しました。当社の車載用負極材は、日産自動車株式会社殿が2010年12月に発売したEV「日産リーフ」に搭載されているリチウムイオン電池に採用いただいている他、国内外のお客様に採用いただいております。

当社は現在、車載用負極材の生産を昨年4月に稼働を開始した第一ライン、本年1月に稼働を開始した第二ラインで行っていますが、2011年7月時点で稼働率が高まっており、今後の市場の伸びに伴う、既存のお客様からの需要増、新たなお客様のご要求に対応するため、当初の計画通り約35億円を投じ、生産能力を倍増することとしました。

今回増設する2ラインは、ユーティリティの緊急時対策を強化し、設備の耐震性向上を図ったもので、生産能力を倍増するだけでなく、大震災が発生した場合の復旧期間も短縮できます。当社は、今後も車載用負極材の需要の伸びに合わせ、数年内に複数回の能力増強を行う予定であり、積極的な設備投資を継続することで、負極材事業での世界トップシェアの維持を図ります。

以上